

文部科学大臣 萩生田光一 様
文化庁長官 宮田亮平 様

「あいちトリエンナーレ」における国際現代美術展開催事業について、文化庁の「文化資源活用推進事業」の補助金全額不交付に反対します。

今回の不交付決定にあたって、本事業を補助金交付対象として採択する際の審査に当たった有識者の意見聴取も行われず、決定した際の議事録も残っていないということが報じられています。このことは、この決定に至る経緯に透明性がないことを示しています。審査の透明性や専門性を有した外部有識者の意見聴取は、行政が恣意的なものにならないために特に必要なことだと思います。

手続き上の問題が不交付の理由とされていますが、専門家による厳正な審査を経て決定された補助金を全額不交付とするための理由として十分なものとは思われません。

今回の不交付決定は、芸術家だけでなく、研究遂行上補助金を獲得することが必須となっている多くの研究者に大きな衝撃を与えています。このような意見表明をすること自体によって、なんらかの不利益を被るのではないかという恐怖も感じます。

今回の不交付の目的が、国の方針と合わない内容の作品には補助金を交付しないというメッセージを発することにあるのだとしたら、その効果は十分に発揮されたと言えるかもしれません。だからこそ大きな危惧を覚えます。表現の自由を保障する文化行政を望みます。

小松佳代子
2019年10月25日